

横輪いも

ブランド化目指す

伊勢市横輪町特産のヤマイモ「横輪いも」の味を全国に広げようと、町住民でつくる「横輪町活性化委員会」と小売業大手のイオンリテール(千葉市)、県、伊勢市が「伊勢の横輪いも推進協議会」を設立した。地域特有の食品生産を支援するイオンリテールの「フードアルチザン(食の匠)活動」の一環。十三日に伊勢市岩瀬一の市観光文化会館で設立総会があった。

(川原田喜子)

横輪いもは昭和初期に横輪町で栽培が始まった。強い粘りとジネンシヨのような濃い風味が特徴で、とろろ汁などが長年地元で愛されてきた。

特産品として人気が高まる中、安定して生産できる栽培技術や貯蔵法の確立が課題で、今年も、猛暑と少雨で収穫量は例年の三分の一程度にとどまる見込みだ。

県や伊勢市、イオン 推進協を設立

フードアルチザン活動の対象となっている食品は安納いも(鹿児島県)、宿儺かぼちゃ(岐阜県高山市)など全国に二十八件あるが、県内では初めて。観光振興などで連携する協定をイオンと結んでいる県が、横輪いもを推薦した。協議会を構成する四者が協力して横輪いもの生産、加工、販売の課題解決を進め、ブランド化を目指す。

設立総会には関係者約六十人が出席。活性化委員会の上田和夫会長(六三)、鈴木健一市長、県とイオンリテールの担当者が設立趣意書に調印した。試食会もあり、出席者は住民が作ったとろろ汁、ご飯などを味わった。

今後は横輪町内の試験農場での栽培実験、商品開発などに取り組み。十二月上旬から橈部町のイオン伊勢店で横輪いもの販売も始まる予定。上田会長は「イオンの販売網や加工品開発、県の農業研究は大きな力になる。協議会設立を機にますます精進し、地域を元気にしたい」と話した。



岡澤

●設立総会に集まった上田会長(前列右端)と生産者ら
●横輪いも 伊勢市岩瀬一の市観光文化会館で

